

「わたしたちのきょうど」を活用した授業づくり



「わたしたちのきょうど」は、朱書きを読めば、どの先生も、教育課程に沿った授業を行うことができるように作成されています。今回は、「わたしたちのきょうど」を活用した授業づくりのポイントを紹介したいと思います。

1 「ねらい」と「評価について」の朱書きを読んで、授業のゴールを明確に！



授業を考える際、教育課程を読んでいると思います。「わたしたちのきょうど」の教師用には、朱書きがたくさんありますが、読んでいますか？その朱書きには、授業づくりのヒントがたくさんあります。どの授業も同じですが、**授業のゴール(子どもがどのような記述や発言をすればよいか)を明確にする**必要があります。教育課程だけでなく、朱書きにある「**ねらい**」と「**評価について**」を読み、**授業のゴールを明確にする**といいと思います。

<例> 3年「店ではたらく人」P.80~P.81

1 名古屋市のスーパーマーケットで売られている野菜やくだものがつくられたところを、左の地図をもとに調べ、つくられた場所ごとに分けてまとめましょう。＊出てきた都道府県や国の位置・国旗は、地図帳で確認させるとよい。

愛知県でつくられているもの	
キャベツ、たまねぎ	
みかん、いちご、にんじん	など

ほかの県でつくられているもの	
じゃがいも(北海道)、りんご(青森けん・長野けん)	
えのき、レタス、はくさい(長野けん)	
キャベツ(ぐん馬けん)、みかん(しずおかけん)	など

外国でつくられているもの	
バナナ、パイナップル(フィリピン)	
キウイフルーツ(ニュージーランド)	など

2 調べて気づいたことを話し合い、まとめましょう。

- ・あい知けんにつくられたものもあれば、ほかのけんや市でつくられたものもある。
- ・外国からはこばれてきたものも売られている。

など

評価をとるところ

「ねらい」… 品物の産地について地域ごとに分類してまとめ、いろいろな品物が日本各地や外国から運ばれてくることを資料や地図帳から読み取る。

「評価について」… 品物の産地をまとめる場面で、地域ごとに分類してまとめ、いろいろな品物が日本各地や外国から運ばれてくることを資料や地図帳から読み取ることができているかを、ノートの記述や発言から評価するとよい。

→ この授業では、子どもが「いろいろな品物が日本各地や外国から運ばれてくること」を「わたしたちのきょうど」P.80の資料と、地図帳の世界地図から読み取ることができればよいことが分かります。「わたしたちのきょうど」P.81①を記述できればOKではなく、②の記述例の朱書きや教科書P.81の子どもの記述例のようなことを子どもが記述したり、発言したりすることがこの授業のゴールとなります。

なお、ゴールが明確になると、毎時間、確実に評価をとることができるようになるので、「テストが少ないから、評価がとりにくい」ということがなくなります。

<例> 4年「地しんからくらしを守る」P.88~P.89

ねらい
地震が起きたときの消防署、市役所、自衛隊など関係機関の活動について調べ、被害を少なくするための工夫について促す。

2 地しんからくらしを守る

ねらい
地震が起きたときのひがいを少なくするために、だれがどのような活動をしているのか調べよう。

【地しんのひがいを少なくする救助訓練】

〈がれきから人を助け出す訓練をする特別消防隊(ハイパーレスキューの人々)〉



たおれたたて物の中に人がいるかどうか調べる道具

ハイパーレスキュー隊は、大きな地しんが起きたとき、消防署や警察署の救助技術や道具では対応できない場所に出動し、人々を救助します。特別な道具を使い、訓練を行っています。

【自衛隊の出動】

大きな地しんが起これば、消防署や市役所の人はたらいはたきだけでは、人々の命やくらしを守ることができない場合、自衛隊が出動することがあります。

自衛隊は、にげおくれた人を助けたり、ひなん場所に水や食料をどけたりすることができます。大きな地しんにそなえて、自衛隊が出動するしくみもつとられているのです。

※国土交通省東北地方整備局HP「震災伝承館」宮城県七ヶ浜村(304529)を転載した。
防衛省HP「陸上自衛隊とは」>「災害派遣の仕組み」より作成

【ひなん行動計画の話し合い】

市役所が中心となって、「ナゴヤ避難ガイド」や、いろいろなハザードマップなどをつくりました。これは、大きな地しんが起きてしまったときに、みなさんがどのようにひなんするよいかを決めたものです。これらのガイドやマップをつくるために、市役所だけでなく、消防署や地いきの人といっしょに相談をしました。これからは、これらのガイドやマップを、それぞれの学区に合ったものにしていくことが大切です。

(市役所の人の話)

※名古屋市ホームページ「暮らしの情報」>「防災・危機管理」>「災害に備える」のページに、ナゴヤ避難ガイドや各種ハザードマップ、地区防災カルテなどがある。

1 地しんが起きたときのひがいを少なくするために、だれが、どのような活動をしているのか調べましょう。

- ハイパーレスキューの人が、がれきの中から人を探すどくべつな道具を使うくんれんをしている。
- 自衛隊が出動するしくみがつくられている。 など

※これ以外にも、消防署では日々、様々な訓練を行っている。消防署ごとに訓練内容が異なるため、最寄りの消防署へ問い合わせ、見学へ行くとよい。

2 地しんが起きたときにみんながひなんするためのくふうについて調べましょう。

- 市役所の人が中心となり、消ぼうしややいばり、避難ガイドや、いろいろなハザードマップをつくる。
- ひなんガイドやマップを学区に合わせて調べる。

評価をとるところ

3 地しんが起きたときにひがいを少なくするための活動についてまとめましょう。

消ぼうしよの人は 私たちの命をまもるために、さまざまなくんれんを行っている。

自衛隊の人は 消防士や市役所の人はたらいはたきだけでは足りないときに活動する。

市役所の人は 中心となって、私たちがどのようにひなんすればよいかの計画を立てる。

※評価について 評価している。 など
【知識・技能】 地震が起きたときに被害を少なくするための活動についてまとめる場面、消防署は救助のための訓練、市役所は避難計画の策定、自衛隊は市や県の活動だけでは足りないときに活動することを伝えることができているかを、ノートの記述から評価するとよい。

「ねらい」… 地震が起きたときの消防署、市役所、自衛隊など関係機関の活動について調べ、被害を少なくするための工夫について捉える。

「評価について」… 地震が起きた時に被害を少なくするための活動についてまとめる場面で、消防署は救助のための訓練、市役所は避難計画の策定、自衛隊は市や県の活動だけでは足りないときに出動することを捉えることができているかを、ノートの記述から評価するとよい。

→ この授業では、「わたしたちのきょうど」P.88とP.89の資料を読み取る中で、子どもが「地震の被害を少なくするための公助（行政による救助・支援）の働き」を捉えることができればよいことが分かります。「わたしたちのきょうど」P.89①や②のように取組のみを記述するのではなく、③の記述例の朱書きのように、取組と、取組をする理由や意味を子どもが記述することがこの授業のゴールとなります。

2 授業のゴールに到達するための、問い掛け(補助の発問)を考える！



授業のゴールを明確にしたら、次に押さえることを明確にします。めあては書いてあるので、経験が浅い方はそのまま使って大丈夫です（もちろん、慣れてきたらアレンジしてOKです）。3年のものを例に挙げると、産地を調べただけでは、全員がねらいとするような記述や発言をしないと思います。そこで、活動をする中で、問い掛け（補助の発問）を考える必要があります。

<例> 3年「店ではたらく人」P.80～P.81

いろいろな品物が日本各地や外国から運ばれてくることを読み取りやすくするために…

- 「いくつの県から運ばれていますか？地図に鉛筆で丸を付けましょう」
→ 様々な場所から運ばれていることに気付く
- 「何種類の品物が運ばれていますか」
→ 様々な品物が運ばれていることに気付く
- 「どのくらい離れた場所から運ばれていますか（子どもの答えは、具体的な数字でなく「近い」「遠い」でよい）」
→ 様々な場所から運ばれていることに気付く

※ これら投げ掛けをした場合は、複数のスーパーマーケットのちらしを見せ、資料は一部であり、実際は他の都道府県や国からも、様々な品物が運ばれていることを押さえる。



名古屋市だけでなく、他の市や県、外国といった様々な場所からわざわざ運んでいることを押さえる必要があります。また、様々な遠い場所から運んでいる品物が1種類だけでなく、たくさんの種類であることを押さえる必要があります。なお、本来ならほとんどの都道府県からいろいろな野菜の果物が名古屋市で売られています。「わたしたちのきょうど」P.80の資料は、愛知県の近くの県だけでなく、北海道や九州など、遠くの県からも品物が運ばれていることに気付きやすくするために、一部を抜粋してかかれています。

※ 遠くから運ぶ必要性は5年生の食料生産で学習するので、ここでは触れない方がいいと思います。

<例> 4年「地しんからくらしを守る」P.88~P.89

公助の取組と、取組をする理由や意味を捉えやすくするために…

- 「ハイパーレスキューの人が訓練をするとどんないいことがありますか」
「早く救助ができるようになるとどんないいことがありますか」
→ わたしたちの命を守るために訓練をしていることに気付く
- 「避難場所に水や食料があるのに、なぜ、自衛隊の人は水や食料を届けるのですか」
「消防署の人が救助をするのに、なぜ、自衛隊の人も救助をするのですか」
→ 自衛隊は、市役所や消防署の人の取組では足りないときに、活動していることに気付く
- 「避難の仕方は個人で考えればいいのに、なぜ、市役所の人考えるのですか」
→ 市役所の方は、津波の高さの想定や津波避難ビルの指定など個人ではできないことをして、被害を小さくしていることに気付く



取組の意味に気付かせたい場合は、取組を取り上げるだけで終わるのではなく、取組を行うメリットを考えさせたり、「なぜ」という言葉を使って問い掛けたりすると、取組を行う理由や意味に気付き、捉えやすくなります。

おまけ わたしたちのきょうどをよりよく活用するために

「資料に何がありますか」と問い掛けても、こちらを意図したことを見付けられない子どもがいるのですが…



投げ掛けの際は、注目してほしいことをピンポイントで伝えた方がいいです。また、資料に書き込むのはOKなので、書く作業も与えると、よりいいと思います。

例えば、3年「店ではたらく人」P.69のスーパーマーケットの様子では、お店の人がしていることに注目させたいので、「お店の人に丸を付けましょう」という投げ掛けをします。その後、「どこにお店の人いましたか」と投げ掛けて発表させ、「何をしていますか」と再度投げ掛けます。それにより、お店の人がしていることに注目させることができます。最後に、「お客様の願いをかなえている人はどの店員さんかな」と投げ掛けることで、スーパーマーケットで働く人の工夫の予想につなげます。



【スーパーマーケットの様子】



資料に直接、○を付けさせましょう。

「お客様の願いをかなえているのは、店員さんだけかな？」と問い掛けることで、設備面や表示などに子どもの目を向けさせると、よりいいと思います。

- 3 おきゃくさんのねがいに合わせて、スーパーマーケットではたらく人はどのようなくふうをしているのか、よそみましょう。
- ・しなものが早くとどくようにしている。

写真の横についてる①や②といった数字は何ですか？



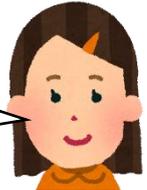
この数字は子どもに説明するときを使うものです。注目させたい写真があるときに「①の写真を見て」というと、子どもはすぐに注目させたい写真を見ることができます。

3年生はめあてが書いてあるので、いきなり「今日は〇〇」というめあてです」と言うことになり、子どもの意欲を高められないです。



必ず上から順番に取り上げないといけないわけではありません。例えば、はじめは「わたしたちのきょうど」を閉じたままにさせ、「わたしたちのきょうど」にある資料や、本時に関わる写真、実物を提示し、それについて話し合わせることで、意欲を高めることもできます。

ページによっては、本時のまとめや振り返りを書くスペースがないのでどうしたらいいですか。



学校にあるB6計算練習用紙などにまとめや振り返りを書かせ、「わたしたちのきょうど」に貼るという方法もあります。独自に枠を作り、毎時間、その枠に記入させてもいいです。

教師が指定した資料を、子どもがそのまま写すだけの授業になってしまうので、困っています。



「〇〇はどうですか」と投げ掛けた後、資料のページを見て答えを探している子どもを、「資料から見付けようとしている人がいます」「よく知っているね。どうして分かったの」などと全体の場でほめることを続けましょう。そうすると、どの子どもにも、資料から探す習慣がつかめます。教師が指定したところを写すだけだと、やらされている感じが強いですが、自分で見付けさせた上でノートに書かせると、やらされている感じが少しは和らぎます。